【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第４部門第１区分
【発行日】平成25年8月22日(2013.8.22)

【公開番号】特開2012-31648(P2012-31648A)
【公開日】平成24年2月16日(2012.2.16)
【年通号数】公開・登録公報2012-007
【出願番号】特願2010-172544(P2010-172544)
【国際特許分類】
Ｅ０４Ｂ　9/18　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｅ０４Ｂ　5/58　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成25年7月4日(2013.7.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
本発明は、上記のように構成したことにより、吊りボルトの上側に補強ブレース先端側を固定する、所謂挟み込みタイプの取付け金具でありながら、Ｕ字状の吊りボルト固定部を吊りボルトに外嵌した状態で、直ちに補強ブレースの角度調整と、補強ブレースの下側を固定するに適した高さに位置合わせ作業を行なえるようになり、しかも、一方の手で補強ブレースを保持し、一旦位置合わせされた状態から拡開姿勢の操作片を、他方の片手による挟み込み操作で押圧変姿するだけの簡単な操作で、手を離しても位置合わせがズレることなく位置ズレ規制かなされた状態で素早く吊りボルトに仮固定することができる。その結果、垂下する補強ブレースを支えることなく、両手を離した状態でのボルト締めやビス止め作業を行って本固定することができ、一人で補強ブレースの取付け作業を行なっても、一カ所要する作業時間を大幅に短縮して作業効率を向上することができ、もって、天井施工全体の作業コストの軽減と施工性の向上を図ることができる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
以下、本発明の実施の形態を好適な実施の形態として例示する補強ブレースの取付け金具を図面に基づいて詳細に説明する。図１は、本発明の実施形態に係るユニット天井に補強ブレースが取り付けられた状態の全体納まり図、図２は、本発明の実施形態に係る取付け金具の実施例を示す（Ａ）は平面図、（Ｂ）は正面図、（Ｃ）は背面図、図３の（Ａ）～（Ｃ）は、本発明の実施形態に係る取付け金具の取付方法を示す説明図である。
これら図面において、１は天井躯体であって、該天井躯体１には、複数の吊りボルト２が所定間隔を存して吊持されており、この吊りボルト２の下端に天井パネルを敷設するためのＴハンガー４１を介してＴバー４が天井面全体に格子状に組み付けられることでユニット天井面が形成される。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８

【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
　また、ブレース連結金具７は、取付け金具６の操作片６４と連結片６１との間に配設すると共に、操作片６４は、案内片６３と連結片６１とをビス固定した際に、ブレース連結金具７を押圧可能に構成されているので、本固定した状態で、操作片６４が接合先部７２に弾圧され、軸着部８を介して自重垂下した補強ブレース５の自由揺動やガタツキが規制され、振れ止めとして機能することができ、補強ブレース５の基端側を固定金具４１ａを用いて吊りボルト２の下部に取着する際、傾斜させた補強ブレース５を作業者が不用意に手を離しても、振り子のように勢い良く振れてしまい、下端部などがぶつかって負傷するなどの不測の事態を未然に回避でき、作業時の安全性を高めることができるだけでなく、操作片６４が押圧片となって、補強ブレース５をガタツキ無く施工することができ、耐震強度に対する筋かいとしての補強機能を向上させることができる。